

『eValue V』がJBCCグループの 申請・承認業務の省力化と スピードアップをサポート



JBCC株式会社は『eValue V ワークフロー／ドキュメント管理』導入により業務を効率化、OSKの販売パートナーとして他社への提案も行っている

企業のDX(デジタル・トランスフォーメーション)を支援するITサービス企業であるJBCC株式会社。同社は統合型グループウェア『eValue V ワークフロー／ドキュメント管理』を活用して、申請・承認業務の省力化とスピードアップを実現している。今回、スマートデバイスを利用して、リモートワーク時や外出先からでもスムーズに承認作業が行える環境を整えた。また、タイムスタンプを用いて電子帳簿保存法改正への対応を行っている。

導入の狙い

- ・スマートデバイスを利用した承認業務のスピードアップ
- ・ノンプログラミングで申請書を簡単作成
- ・電子帳簿保存法改正への対応

導入システム

- ・統合型グループウェア『eValue V ワークフロー／ドキュメント管理』
- ・『タイムスタンプ オプション』

導入効果

- ・申請書の見直しにより申請・承認業務の負担軽減
- ・承認業務の迅速化と時間の有効活用
- ・タイムスタンプを用いて電子帳簿保存法の改正に対応

USER PROFILE

JBCC株式会社

【業種】ITサービス業

【事業内容】クラウド、セキュリティ、超高速開発を中心にシステムの設計から構築、運用まで一貫して対応

【従業員数】1,038名(2024年4月現在)



2024年4月取材



東京ミッドタウン八重洲の本社のワークスペース。「創り出そう、躍動する社会を。挑戦しよう、技術とともに。」というビジョンの下、ITを通じて持続可能な社会の実現に貢献することを目指している

超高速開発「JBアジャイル」が 企業のビジネス変革を最速で支援

全国に事業所を展開するJBCC株式会社は、クラウド・セキュリティ・超高速開発を中心としたシステムの設計から構築、運用までを一貫して手がけるITサービス企業。とりわけ、超高速システム開発手法「JBアジャイル」という独自の開発手法により、短納期・高品質を実現していることは大きな強みだ。

同社執行役員でサービス事業 DX推進 事業部長の武田 雅大氏は、同社の事業について次のように説明する。

「当社では、高品質なシステム開発を短納期で実現できる仕組み、『JBアジャイル』を確立しています。開発期間が従来の半分程に短縮できる超高速開発手法によって、他社との大きな差別化が図れています。また、近年では、システム製品の販売からストックビジネスであるクラウドサービスへと転換してきているといえます」

2021年には、中堅・中小企業のDXを実現するトータルITサービス「HARMONIZE（ハーモナイズ）」を提供開始。DX領域の包括的なサービスとソリューションを提供している同サービスだが、中でも最近はクラウド診断サービスが好評だという。DX推進をはじめとしたお客様のさまざまな課題の実現に向けて、最適な組み合わせによって解決策の支援を行っている。

2023年2月に東京ミッドタウン八重洲に

移転した本社は、JBCCグループのビジョンとして掲げる「私たちが価値を置くのは、挑戦することである」を実現する場といえる。豊かな創造力を引き出し、社員間のコミュニケーションを促すワークスペースが、さまざまなシチュエーションに応じて用意されている。また本社のオフィスに限らず、働く場所や時間の選択ができたり、複業を推奨するなど、同社では社員の自主性を促すとともに、働きやすい環境を提供している。

サービス事業
DX推進
運用企画部
坂 千晶氏

「『eValue V』でスマートデバイスを使った承認業務が可能になり、外出時間も有効活用できるようになりました。承認がスピーディーに進むのでありがたいです」



サービス事業
DX推進
X-ing推進部
奥泉 翔太郎氏

「『eValue V ドキュメント管理』にタイムスタンプオプションを加えることで、電帳簿保存法改正への対応も順調に行えました」



ワークフロー申請書の見直しで 作業負担を軽減

同社では、サービス事業 DX推進部門が中心となって、ITを活用した社内の業務改善に積極的に取り組んでいる。

かつて、申請・承認業務は『Notes』や紙ベースで運用していた。しかし、『Notes』に関しては申請フォーム作成でも2カ月を要する場合もあった。申請から承認にかかる手間も課題であり、各地の事業所から本社へ郵送で提出することによる時間的なロスと書類紛失というリスクもあった。

そこで、2011年にシステムの見直しを図り、新たに『eValue NS ワークフロー／ドキュメント管理』を導入した。主な選定理由は、申請フォームの作成や運用管理が容易に行えること、承認された申請書がドキュメント管理に自動的に保管されることであった。導入後、申請フォーム作成が数日で行えることから、一気にペーパーレス化が加速。年間で約12,000枚の用紙削減効果をもたらすとともに保管スペースも削減、各事業所から本社への郵送も不要となった。

その後、申請・承認業務のさらなる効率化を図り、2020年に『eValue V ワークフロー／ドキュメント管理』へバージョンアップを行う。サービス事業 DX推進 運用企画部の坂 千晶氏は、その導入経緯を次のように語る。

「入れ替えに着手した際は折しもコロナ禍で、当社でもリモートワークが浸透しつつありました。PCだけでなくスマートフォンやタブレットで、いつでもどこでも承認業務が行える仕組みが求められていた中、ちょうど良いタイミングでの『eValue V』リリースでした」

今回の入れ替えでは、既存の申請書を全て精査し、業務がよりスムーズに行えるように検討された。

「人事系の休暇申請や経理系の経費精算、業務系のマスター登録申請など、これ



フリーアドレス制のワークスペースは、コミュニケーションを重視したオープンスペースと、集中して業務のアウトプットを行う執務エリアに分かれている

までにSDKを利用して自社で作成込んだ申請書は300件以上ありました。今回それを180件程度に絞り込むとともに、入力項目を見直してシンプルにして、申請や承認の作業負担を軽減しています」(坂氏)

申請書の再整備を坂氏と分担して行った、サービス事業 DX推進 X-ing推進部の奥泉 翔太郎氏は、当時の状況を次のように語る。

「移行にあたっては、将来のワークフローの切り替えも見据えてノンカスタマイズをコンセプトに取り組んだため、使い勝手を優先する利用者の説得に苦労しました。当然、当初は慣れている従来の申請書の方が使いやすいという意見もあったのですが、会社の方針で業務の標準化を図っていることを説明することで利用者に理解してもらうことができました」

電子帳簿保存法に対応 タイムスタンプ付与機能を追加

同時に入れ替えを行った『eValue V ド

キュメント管理』は、JBCCグループの就業規定や、顧客のクラウドサービス構成や設定仕様などの保管に活用している。当然のことだが、アクセス権限は厳密に設定され、機密情報の漏えいを未然に防ぐべく対策を取っている。

また、今回『eValue V ワークフロー』で行った申請書の項目見直しにおいては、ドキュメント管理も活用している。旧申請書からの変更点等について注意事項をまとめた利用マニュアルや、寄せられた問い合わせをまとめてFAQを作成し、ドキュメント管理に保管したものをワークフローから参照させる、といった運用を行っている。

2022年にはOSKにも相談のうえ、電子帳簿保存法改正に対応するために、『タイムスタンプオプション』を追加導入した。請求書や領収書等の国税関係書類をスキャナーでデジタル化した証憑(しょうひょう)や、電子取引データへタイムスタンプ付与を行っている。タイムスタンプの一括検証も行えるので、業務負荷の軽減や紙書類保

管にかかるコスト削減にも寄与している。

外出の多い上司は承認作業に スマートデバイスをフル活用

JBCCグループ全体で活用する『eValue V ワークフロー』、利用者は1,500人ほどにのぼる。『eValue NS』から切り替えた当初は、入力ミス等で最終承認までに時間がかかるケースもあったというが、現在は順調に稼働している。

「グループの全員が日常業務で利用していますが、従来よりも入力項目が減りシンプルになったことで、運用効率が良くなった申請書もあります」(坂氏)

一つの申請に対して承認者が10人以上に及ぶ場合もあるため、外出時の空き時間や、海外からでもスマートデバイスを使って承認作業が行える効果は非常に大きい。

「承認する側の立場としては、電車の中でも申請内容の確認や承認作業が行えるので助かっています。ノートPCが必須だったころとの差は歴然としています。処理が途中で滞ることも確実に減り、非常に重宝しています」(武田氏)

サービス事業 DX推進 運用企画部 の渡辺 淳一郎氏は、『eValue V ワークフロー』の導入効果を次のように語る。

「内部統制の仕組みが強化されたことに一番メリットを感じています。上場企業である当社では、監査法人から『この業務

プロセスは、いつ誰が申請して承認されたものか?』といった質問をされることがあります。ワークフローによって信頼性が担保されているので、会社の信頼性の向上にも大きく貢献しています」

同社は『eValue V』の導入ユーザーであると同時に、OSKの販売パートナーとして同製品を販売している。自社で実際に運用して、効果があることを納得したうえで提案するからこそ、顧客に自信をもって薦められるのだ。

「OSKさんの『eValue V ワークフロー』の一番の魅力は、申請書を簡単に作成できることです。マニュアルを見なくても直感的に作業が行えるので、今後、運用担当者の交代や、新規で申請フォーム作成が必要なことがあったとしても安心しています」(奥泉氏)

同社では、今後も『eValue V ワークフロー／ドキュメント管理』を有効活用しながら、業務の省力化やスピードアップを図り、柔軟に対応していく考えだ。



JBCC株式会社のホームページ

<https://www.JBCC.co.jp/>

お問い合わせ